

藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

事務事業名	文化行事費										担当	部課名	生涯学習部 文化芸術課			
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	001	説明	03	課等の長	横田 隆一	電話	6742

1. 事業概要

事業開始年度	平成 元 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務
事業概要	魅力ある文化芸術の創造のため、文化芸術の鑑賞機会の更なる充実を図るとともに、将来の藤沢の文化芸術を担う人材を育成するための事業を実施する。				
事業目的および必要性	子どもや若者たちを対象とした文化芸術の鑑賞機会を提供することにより、文化の後世への伝承を図るとともに、将来に向けた市民の文化芸術活動の活性化や藤沢の文化芸術を担う人材の育成を図る。 市民の活発な活動や若手芸術家の育成により、新たな文化芸術の創造発信及び、個性豊かで魅力ある地域文化の形成を目指す。				
対象	1. 個人	市民			427,501 人
根拠法令等	法律等	文化芸術基本法			
事業実施手法 (該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施				
	<input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 (委託先 : ころの劇場招待事業実行委員会)				
	(委託等内容 : ころの劇場招待事業)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金及び負担金 : 藤沢市文化団体連合会, 松本市国際音楽祭推進団体協議会)				
<input type="checkbox"/> その他 ()					
藤沢市市政運営の総合指針2020					
重点施策名			指針体系コード		その他の計画との関連
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出			2-2-61		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」					
市民意識調査における質問項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
市内に文化的な魅力があると感じますか		3.2 点	3.3 点	3.8 点	2.78 点
		点	点	点	点

平成29年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
5,797 千円	委託料	2,655 千円	「ころの劇場」小学生招待事業業務委託
	負担金補助及び交付金	3,142 千円	藤沢市郷土芸術文化推進事業補助金 2017セイジ・オザワ松本フェスティバル スクリーンコンサート負担金
【参考】 平成30年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報酬	113 千円	文化芸術事業評価委員会報酬
	委託料	2,655 千円	ころの劇場招待事業委託料
8,488 千円	補助金	5,720 千円	郷土芸術文化推進事業補助金, 市民シアター第九演奏会補助金ほか

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
正規職員等	0.40	0.30	0.30	0.30
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.40	0.30	0.30	0.30

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

平成29年度 事業実施 内容	<ul style="list-style-type: none"> 「こころの劇場」小学生招待事業（演目：ミュージカル「ガンバの大冒険」） 藤沢市民会館大ホールにて、6月21日（水）、22日（木）の2日間、計4公演実施した。 みらいをひらく ワクワク体験ひろば 藤沢市民会館にて3月24日（土）、25日（日）に実施した。 セイジ・オザワ松本フェスティバル事業スクリーンコンサート 湘南台文化センター市民シアターにて9月8日（金）に実施した。 						
	指標名	単位	平成26年度 目標値	平成27年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	備考
成果目標	こころの劇場招待事業入場者数	人	3,900	3,900	3,900	3,900	
	みらいをひらく ワクワク体験ひろば 参加者数	人	750	1,000	1,250	1,500	
参考							
活動実績	指標名	単位	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	備考
	こころの劇場招待事業公演数	公演	4	4	4	4	
成果実績	みらいをひらく ワクワク体験ひろば 実施日数	日	2	2	2	2	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
成果実績	こころの劇場招待事業入場者数	人	3,799	4,198	4,080	3,617	
	みらいをひらく ワクワク体験ひろば 参加者数	人	1,182	1,442	1,930	1,720	
数値で表せない効果							
文化芸術の鑑賞や体験の場づくりを進めることにより、次代を担う子どもたちに様々な文化芸術が存在することを伝えることができ、もって本市における文化芸術の振興に寄与した。							

4. コスト分析

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
支 出	行政費用(フルコスト) A	7,728	9,412	9,182	8,622	
	(1)現金を伴う支出 (千円)	7,723	9,834	9,192	8,697	
	事業費(支出済額-②報酬合計)	3,932	6,970	6,299	5,797	
	償還金利子	0	0	0	0	
	人件費合計(①+②+③)	3,791	2,864	2,893	2,900	
	職員数(常勤 非常勤)	0.40 0.00	0.30 0.00	0.30 0.00	0.30 0.00	
	参考:正規職員平均給与	8,880	9,040	9,101	9,219	
	①職員給与合計(常勤)	3,552	2,712	2,730	2,766	
	②報酬合計(非常勤)	0	0	0	0	
	③退職金相当額	239	152	163	134	
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	5	-422	-10	-75	
	①減価償却費	0	0	0	0	
	②退職給与引当金繰入額	5	-422	-10	-75	
	③不納欠損額	0	0	0	0	
④その他()	0	0	0	0		
収 入	行政収益(事業収入) B	0	0	1,242	1,242	
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	1,242	1,242	
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
	②使用料及び手数料 d	0	0	0	0	
	③国庫支出金	0	0	0	0	
	④県支出金	0	0	0	0	
	⑤その他(文化振興基金繰入金)	0	0	1,242	1,242	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0		
収入未済増減額	0	0	0	0		
収支差額(純費用)A-B E		7,728	9,412	7,940	7,380	
分析指標	項目	こころの劇場招待事業入場者数 F	3,799	4,198	4,080	3,617
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		2,034.22	2,242.02	2,250.49	2,383.74
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		18.47	22.38	18.68	17.26
	受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00

※1 職員数…(常勤)一般職員、再任用職員、任期付職員、嘱託職員〔非常勤〕月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)
 ※2 人件費…(常勤)任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出〔非常勤〕月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額
 ※3 退職金相当額…年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し、事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成28年度の課題	「こころの劇場」は、人件費の増加により事業費がひっ迫していることから、何らかの対応が必要となっている。 「みらいをひらく ワクワク体験ひろば」は、文化団体連合会所属の団体による体験の場の提供事業であり、事業の定着とともに、参加者の増加が続いているが、その維持・発展とともに、内容の検討が必要である。
(2) (1)解決のための平成29年度の取組	「こころの劇場」については、事業全体を精査するとともに、一部学校の協力をいただきながら、事業費の削減に努めた。 「みらいをひらく ワクワク体験ひろば」については、各団体に可能な限り一日を通して体験プログラムを実施してもらうよう依頼するとともに、各団体の配置場所を工夫することなど、参加者が様々な体験をすることができるよう配慮した。
(3) 平成29年度の課題	「こころの劇場」は、児童数の減少は当面の間見込まれないため、引き続き4回公演での実施が必要であることから、効率的に事業を実施していくことが必要である。 「みらいをひらく ワクワク体験ひろば」は、参加者の増加に向けた検討を実施主体である文化団体連合会所属の団体とともに行っていくことが必要である。
(4) (3)解決のための今後の取組	「こころの劇場」は、引き続き4回公演が行えるよう、ミュージカルを提供する劇団四季との調整を行っていく。 「みらいをひらく ワクワク体験ひろば」は、次世代育成事業として多くの子どもたちに様々な文化芸術体験を提供できるよう、実施団体とともにその魅力向上のための手法を検討する。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…平成29年度支出済額	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上
		(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
		5. 補助金・負担金	こころの劇場招待事業については委託料として実施

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	<p>人々の心に平和と豊かさをもたらす芸術文化の効用は、ますます重要性を増している。近年では、日本の各地域で官・民間問わず、多くのアートフェスティバルが開催されるようになり、その数も年々増加している傾向にある。また、東京2020オリンピックに向けて、文化プログラムの中心的施設として活動していく使命を負っている。</p>	
他市等の事例	<p>平成29年度「こころの劇場」は全国の169都市（436公演）で実施されている。各自治体で活動する文化団体等への補助については、自治体における考え方等により補助金が支出されている。加えて、事業委託が別途行われているケースもある。</p>	
市民ニーズ	把握方法	<p>芸術・文化団体や小学校長会との情報交換・学校へのアンケートを行い、広く意見・提案に耳を傾けていく。</p>
	把握内容	<p>文化事業につながるものか判断し、その中からピックアップする。</p>
	対応等	<p>市民の要望や意見をもとに、今後の事業計画の参考とする。</p>

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>こころの劇場事業については、悪天候により欠席の学校もあったが、昨年度と同様に2日間4公演を実施することができ、学校関係者からの満足度も高い事業となっている。 みらいをひらく ワクワク体験ひろばについては、子どもたちに文化芸術について知ってもらう機会として有効であり、文化活動への積極的な参加につながっていくものと考えている。今年度の運営には大学生ボランティアの協力も得られ、その活動に広がりが見え始めている。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	<p>② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する</p>
	事業の方向性	<p>拡大</p>
	<p>東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、補助対象の団体とともにその開催気運を醸成していくことが必要であると考えている。 「こころの劇場」については、子どもたちに一流の舞台芸術の鑑賞機会を提供できるまたとない機会であると考えているため、効率的な運営を行うよう改善を図りつつ、今後も継続して事業を実施していきたい。</p>	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク分類Ⅰ	リスク分類Ⅱ
10	文化振興事業に係る企画及び実施の補助執行	無	有	1	1

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満，レベル2は10%以上30%未満，レベル3は30%以上。
 ※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響，レベル2は部内への影響，レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	氏名	確認日
生涯学習部	秋山 曜	2018/6/1

藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

事務事業名	アートスペース運営管理費										担当課	部課名	生涯学習部 文化芸術課			
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	001	説明	04	課等の長	横田 隆一	電話	内線6411

1. 事業概要

事業開始年度	平成 27 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	ココテラス湘南6階をアートスペースとして運営し、地元若手芸術家等の創作活動や展示・発表の支援を行うとともに、市民に身近な場所で美術の魅力に触れる機会や学ぶ場を提供することにより、美術の振興を図る。						
事業目的および必要性	本施設は、本市の文化芸術の創造、発信の拠点として、地元若手芸術家の活動を支援するとともに、市民等に身近な美術鑑賞の場を提供することにより、市民文化の向上に寄与し、文化都市としての本市の魅力が高めることを目的として設置されている。開館以来数多くの市民をはじめとする美術の愛好家が来館している事実や、地元で活動拠点ができたことに対して、若手芸術家から高く評価されていることを鑑みると、こうした活動を継続し、市民の文化的、芸術的欲求に答えていくことが必要であると考え。						
対象	1. 個人	市民				427,501 人	
根拠法令等	条例(市)	藤沢市アートスペース条例					
事業実施手法(該当するもの全てにチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 () <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 () <input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020				その他の計画との関連			
重点施策名		指針体系コード					
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出		2-2-71		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム			
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
市内に文化的な魅力があると感じますか		3.2 点	3.3 点	3.8 点	2.78 点		
		点	点	点	点		

平成29年度 支出済額 63,597 千円	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	報酬	8,925 千円	アートスペース非常勤職員、アートスペース運営協議会委員報酬
	需用費	8,122 千円	企画展・公募展等事業費
	使用料及び賃借料	27,031 千円	ココテラス湘南6階施設賃借料
	負担金補助及び交付金	6,860 千円	光熱水費等負担金
その他	12,659 千円	パート賃金、美術品等運搬料	
【参考】 平成30年度 予算額 67,516 千円	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	報酬	8,944 千円	アートスペース非常勤職員、アートスペース運営協議会委員報酬
	需用費	10,215 千円	企画展・公募展等事業費
	使用料及び賃借料	27,033 千円	ココテラス湘南6階施設賃借料
	負担金補助及び交付金	7,147 千円	光熱水費等負担金
その他	14,177 千円	パート賃金、美術品等運搬料	

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
正規職員等	0.00	1.10	2.00	2.00
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	4.00	3.20	3.20
合計	0.00	5.10	5.20	5.20

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

平成29年度 事業実施 内容	若手芸術家等の支援や身近な場所で美術に触れることができる企画展及び年間を通じてのワークショップの開催並びに貸館の実施 ・企画展Ⅰの開催7/7-8/20参加作家3人来館者数：3,089名 ・公募展の開催9/9-11/5参加作家4人来館者数：2,499人 ・「だるまちゃんとおそぼ かこさとし展」の開催11/25-12/18参加作家1人来館者数：11,057人（会場：市民ギャラリー） ・企画展Ⅱの開催12/2-1/28参加作家1人来館者数：3,639人 ・企画展Ⅲの開催3/3-5/6来館者数：1,729人 ・展覧会関連イベントおよびマンスリー・イベント・プログラム（ワークショップ等）参加者数：757人 ・29年度貸館事業来館者数：1,820人 ・平成29年度来館者数合計24,590人						
	成果目標	指標名	単位	平成26年度 目標値	平成27年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値
	若手芸術家支援数	人		17	17	17	
	来館・来場者数	人		15,000	30,000	30,000	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	備考
	若手芸術家支援, 美術振興のための事業実施状況	事業		4	6	6	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	若手芸術家支援数	人		17	17	8	
	来館者数	人		5,550	34,098	24,825	
	来場者数（神台公園会場観覧者数）	人		約12,000	-	-	
	数値で表せない効果						

4. コスト分析

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度				
コスト	行政費用(フルコスト) A	41,731	77,337	88,329	82,427				
	(1)現金を伴う支出 (千円)	39,206	76,118	85,330	82,930				
	事業費(支出済額-②報酬合計)	32,571	51,369	57,226	54,784				
	償還金利息	0	0	0	0				
	人件費合計(①+②+③)	6,635	24,749	28,104	28,146				
	職員数(常勤 非常勤)	0.70 0.00	2.10 4.00	2.00 3.20	2.00 3.20				
	参考:正規職員平均給与	8,880	9,040	9,101	9,219				
	①職員給与合計(常勤)	6,216	15,378	18,202	18,438				
	②報酬合計(非常勤)	0	8,813	8,813	8,813				
	③退職金相当額	419	558	1,089	895				
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	2,525	1,219	2,999	-503				
	①減価償却費	0	0	0	0				
	②退職給与引当金繰入額	2,525	1,219	2,999	-503				
	③不納欠損額	0	0	0	0				
	④その他()	0	0	0	0				
収入	行政収益(事業収入) B	0	0	273	357				
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	273	357				
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0				
	②使用料及び手数料 d	0	0	273	357				
	③国庫支出金	0	0	0	0				
	④県支出金	0	0	0	0				
	⑤その他()	0	0	0	0				
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0					
収入未済増減額	0	0	0	0					
収支差額(純費用)A-B E	41,731	77,337	88,056	82,070					
分析指標	項目	若手芸術家支援数	単位	17	単位	17	単位	8	単位
		F	人	人	人	人	人	人	
	1単位あたりの総費用 A/F (円)	0.00		4,549,235.29		5,195,823.53		10,303,375.00	
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)	99.76	418,308	183.86	420,619	207.14	425,105	191.98	427,501
受益者負担率 (C+D)/A (%)	0.00		0.00		0.00		0.00		

※1 職員数・・・〔常勤〕一般職員, 再任用職員, 任期付職員, 嘱託職員〔非常勤〕月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)
 ※2 人件費・・・〔常勤〕任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出〔非常勤〕月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額
 ※3 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し, 事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成28年度の課題	開館して1年半が経過し、徐々にではあるが施設の存在と事業が認知され始めたが、まだまだ市民の認知度が不足している。特別景観形成地区であることにより、看板類が出せない状況に変わりはないが、ビルオーナー側でもこの問題を重視しており、何らかの対策が必要だと認識している。
(2) (1)解決のための平成29年度の取組	ビルの前にある1階から7階までの各フロアテナントの表示を工夫し、6階と7階を目立つようにするとの提案が開発経営公社からあったため、その提案に基づき表示した。 南側に加えて西側の神台公園からも見えるよう、6階にFASのロゴとタイプを掲出し、施設の存在をアピールした。
(3) 平成29年度の課題	一定程度の施設の認知度アップが図れているが、どのような趣旨の施設なのかをまだまだ訴求していく必要がある。若手芸術家がアートをスペースを交流の場として使用してもらえる施設を目指しているため、彼らが気軽に来館できる雰囲気作りが必要である。オリンピック・パラリンピックの開催を受けて、文化プログラムの中心的な拠点施設として活動を行い、成果を上げていくことが求められる。
(4) (3)解決のための今後の取組	ホームページやSNSを活用した広報活動の充実を一層はかり、施設や事業内容のさらなるPRを行う。(FBに加え、インスタグラム等のSNS媒体を増やす)。若手芸術家が集まりやすい場所の開放やイベントの開催。オリンピック・パラリンピックに関連する講座やワークショップ、展覧会を順次開催し、機運の醸成を図ることによって、文化プログラムの中心的施設としての役割を果たす。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの)	
	② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況)	ア=国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ=本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ウ=時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…平成29年度支出済額	ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合	ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上

(3) 事業の種類	(4) その他の事業特性
3. 施設等維持管理	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	人々の心に平和と豊かさをもたらす芸術文化の効用は、ますます重要性を増している。近年では、日本の各地域で官・民間問わず、多くのアートフェスティバルが開催されるようになり、その数も年々増加している傾向にある。また、東京2020オリンピックに向けて、文化プログラムの中心的施設として活動していく使命を負っている。	
他市等の事例	守谷市のアーカスプロジェクトや横浜市の黄金町バザールなど、近年、現代美術の振興に寄与することを目的に、新進のアーティスト等の創作活動を支援し、展示発表の機会を提供する取組が盛んになってきている。平成29年度には、群馬県中之条町において、第6回中之条ビエンナーレの開催が予定されており、およそ150名のアーティストが参加して思い思いの作品を制作し、町中に展示される。	
市民ニーズ	把握方法	各事業毎にアンケート調査を行い、結果の分析と今後の事業への反映を行っている。
	把握内容	アンケート結果からは、施設の設置目的である地元の若手作家支援を着実に遂行していることに対して、概ね理解が得られている。
	対応等	今後も若手作家の支援を中心とした事業を行うとともに、藤沢ゆかりの著名な作家をとりあげることで、集客力の増強による施設の知名度アップを目指す。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	<p>企画展Ⅰ、Ⅱにおいて湘南地域の若手作家を起用したことで、その支援を行うことができた。2年目となった全国公募展では、全国から前年度の約2倍となる125件の応募があった。また、本市ゆかりの作家である「かこさとし展」では、多くのファンとともにたくさん子どもたちが会場に訪れた。藤沢ゆかりの版画家「山岸主計」の展覧会は、日本で初めてと言っても過言ではない希少な機会となった。そのほかにも多彩なワークショップ事業を展開し、子どもたちを中心に美術の魅力に触れる機会の提供等を行った。</p> <p>こうした活動により、美術の振興と施設の知名度向上、更には文化都市藤沢のイメージアップにつながったものと考えられる。</p>	
今後の方針	まちづくりテーマ	② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する
	事業の方向性	現状維持
	<p>これまでのコンセプトを継続した事業展開を行っていくとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成に向け、関連した様々な企画事業を実施していく。</p>	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク分類Ⅰ	リスク分類Ⅱ
20	アートのスペースの管理・運営に関すること	無	有	1	
21	藤沢市アートのスペース運営協議会に関すること	無	無		1

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満，レベル2は10%以上30%未満，レベル3は30%以上。
 ※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響，レベル2は部内への影響，レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	秋山 曜	確認日	2018/6/1
----	-------	----	------	-----	----------

藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

事務事業名	(公財)藤沢市みらい創造財団芸術文化事業関係費										担当課	部課名	生涯学習部 文化芸術課			
予算科目コード	会計	01	款	11	項	06	目	04	細目	002	説明	01	課等の長	横田 隆一	電話	6743

1. 事業概要

事業開始年度	平成 4 年度	終了(予定)年度	未定 年度	事業の性質	任意自治事務		
事業概要	芸術文化創造の活性化及び市民文化活動の支援・育成を図るため、藤沢市補助金交付規則・藤沢市芸術文化振興事業補助金交付要綱に基づき、公益財団法人藤沢市みらい創造財団に対し助成等を行う。						
事業目的 および 必要性	市民に芸術文化に触れる機会等を提供することにより本市の文化的基盤を充実させるとともに、文化芸術創造の活性化と市民文化活動の支援と育成を図り、もって“郷土愛あふれる藤沢”の実現を目的とする。						
対象	1. 個人	市民				427,501	人
根拠法令等	その他(要綱等)	藤沢市補助金交付規則、藤沢市芸術文化振興事業補助金交付要綱					
事業実施 手法 (該当する もの全てに チェック)	<input type="checkbox"/> 直接実施						
	<input type="checkbox"/> 委託・指定管理 (:)						
	<input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (補助金 : 公益財団法人藤沢市みらい創造財団)						
	<input type="checkbox"/> その他 ()						
藤沢市市政運営の総合指針2020							
重点施策名			指針体系コード		その他の計画との関連		
オリンピック・パラリンピックを契機とした都市の魅力(レガシー)の創出			2-2-51		藤沢市文化芸術振興計画 藤沢市オリンピック・パラリンピック文化プログラム		
関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」							
市民意識調査における質問項目			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
市内に文化的な魅力があると感じますか			3.2 点	3.3 点	3.8 点	2.78 点	
			点	点	点	点	

平成29年度 支出済額	事業費節別内訳		
	費目	支出済額(千円)	主な事業内容
	負担金補助及び交付金	139,704 千円	公益財団法人藤沢市みらい創造財団への補助
	139,704 千円		
【参考】 平成30年度 予算額	事業費節別内訳		
	費目	予算額(千円)	主な事業内容
	負担金補助及び交付金	134,763 千円	公益財団法人藤沢市みらい創造財団への補助
	134,763 千円		

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
正規職員等	0.30	0.30	0.30	0.30
再任用短時・任期付短時職員	0.00	0.00	0.00	0.00
非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.30	0.30	0.30	0.30

※正規職員等＝正規職員＋再任用職員(短時以外)＋任期付職員(短時以外)＋常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

平成29年度 事業実施 内容	(公財) 藤沢市みらい創造財団芸術文化事業部門への助成により、以下の事業が実施された。 ・音楽事業：7事業 16公演 入場者数 7,687人 (市民オペラ入場者含む) ◎第23回藤沢市民オペラ「トスカ」：入場者数3,562人 (4公演合計) ・演劇事業：5事業 11公演 入場者数 3,138人 ・学校訪問事業：9校 1,403人 ・第67回藤沢市展：出展数643点 入場者数6,595人 ・各種市民文化事業：ロビーコンサート、文化講演会等						
	指標名	単位	平成26年度 目標値	平成27年度 目標値	平成28年度 目標値	平成29年度 目標値	備考
成果目標	公演入場者数, 事業参加者数	人	31,000	31,000	31,500	32,000	
	参考						
活動実績	指標名	単位	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	備考
	音楽事業	公演	13	14	14	16	
	演劇事業	公演	9	8	12	11	
	学校訪問事業	回	25	28	26	24	
成果実績	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	実績値	備考
	公演入場者数, 事業参加者数	人	21,226	23,897	24,473	22,484	
数値で表せない効果							

4. コスト分析

年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
コスト	行政費用(フルコスト) A	83,771	112,840	119,157	142,529	
	(1)現金を伴う支出 (千円)	82,689	112,901	119,167	142,604	
	事業費(支出済額-②報酬合計)	79,846	110,037	116,274	139,704	
	償還金利息	0	0	0	0	
	人件費合計(①+②+③)	2,843	2,864	2,893	2,900	
	職員数(常勤 非常勤)	0.30	0.00	0.30	0.00	
	参考:正規職員平均給与	8,880	9,040	9,101	9,219	
	①職員給与合計(常勤)	2,664	2,712	2,730	2,766	
	②報酬合計(非常勤)	0	0	0	0	
	③退職金相当額	179	152	163	134	
	(2)現金を伴わない支出 (千円)	1,082	-61	-10	-75	
	①減価償却費	0	0	0	0	
	②退職給与引当金繰入額	1,082	-61	-10	-75	
	③不納欠損額	0	0	0	0	
	④その他()	0	0	0	0	
収入	行政収益(事業収入) B	0	0	0	0	
	(3)現金を伴う収入 (千円)	0	0	0	0	
	①分担金及び負担金 c	0	0	0	0	
	②使用料及び手数料 d	0	0	0	0	
	③国庫支出金	0	0	0	0	
	④県支出金	0	0	0	0	
	⑤その他()	0	0	0	0	
(4)現金を伴わない収入 (千円)	0	0	0	0		
収入未済増減額	0	0	0	0		
収支差額(純費用)A-B E	83,771	112,840	119,157	142,529		
分析指標	項目	事業来場者数(音楽・演劇事業) F	8,667	8,896	8,397	10,825
	1単位あたりの総費用 A/F (円)		9,665.51	12,684.35	14,190.43	13,166.65
	市民1人あたりの負担額 E/人口 (円)		200.26	268.27	280.30	333.40
	受益者負担率 (C+D)/A (%)		0.00	0.00	0.00	0.00

※1 職員数・・・[常勤]一般職員, 再任用職員, 任期付職員, 嘱託職員 [非常勤]月額報酬の非常勤職員(一部日額報酬の非常勤職員を含む)
 ※2 人件費・・・[常勤]任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出 [非常勤]月額報酬(一部日額報酬を含む)の年度合計額
 ※3 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し, 事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

(1) 平成28年度の課題	こころ豊かな市民生活の実現のため、芸術鑑賞事業（音楽・演劇）や体験発表事業などを実施し、文化芸術の鑑賞機会や活動の機会のさらなる充実を図る必要がある。市民とのパートナーシップによる文化芸術の振興や、魅力ある文化創造の発信に向けた総合的な文化芸術事業の展開の検討が必要。
(2) (1)解決のための平成29年度の取組	今後の事業の方向性について、これまでの実績を踏まえた検討をしていくことが必要である。
(3) 平成29年度の課題	芸術鑑賞事業（音楽・演劇）や体験発表事業と併せて、市民とのパートナーシップによる文化芸術の振興や、魅力ある文化創造の発信に向けた総合的な文化芸術事業の展開を図る必要がある。
(4) (3)解決のための今後の取組	文化芸術の鑑賞の場を提供する音楽・演劇事業に加え、アウトリーチ事業（学校訪問）により文化芸術の鑑賞や活動の機会のさらなる充実を図る。

6. 事務事業の特徴

(1) 事業の性質	① 法的根拠	<input type="radio"/> ア＝法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの（イ～オ以外） イ＝市の条例等で規定されている事業 ウ＝県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの エ＝国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ＝法律等により、事業の実施が義務付けられているもの（市に裁量の余地がないもの）	
	② 事業実施の位置づけ（市民へのサービス提供状況）	<input type="radio"/> ア＝国、県、他自治体や民間等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ＝国、県、他自治体等も、市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ＝国、県、他自治体等も同種のサービスを提供しているが、一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ＝本市のみがサービスを提供し、よりよい生活環境の実現、地域の発展、市民生活の向上を目的とするもの オ＝本市のみがサービスを提供し、生活基盤の維持・確保、市民の権利維持・安全確保を目的とするもの	
	③ 事業期間	<input type="radio"/> ア＝恒久的に実施するもの イ＝年限の定めのないもの ウ＝時限的に実施する事業で、終了まで5年以上あるもの エ＝時限的に実施する事業で、今後2～4年で終了するもの オ＝時限的に実施する事業で、本年度で終了するもの	
	(2) 財政的な特徴	④ 事業費…平成29年度支出済額	<input type="radio"/> ア＝300,000千円以上 イ＝100,000千円以上～300,000千円未満 ウ＝30,000千円以上～100,000千円未満 エ＝5,000千円以上～30,000千円未満 オ＝5,000千円未満
		⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合	<input type="radio"/> ア＝80%以上 イ＝50～80%未満 ウ＝30～50%未満 エ＝10～30%未満 オ＝10%未満
		⑥ 固定的経費比率…行政費用（フルコスト）に占める固定的な経費の割合	<input type="radio"/> ア＝10%未満 イ＝10～30%未満 ウ＝30～50%未満 エ＝50～80%未満 オ＝80%以上
		(3) 事業の種類	
		(4) その他の事業特性	
		5. 補助金・負担金	

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

社会情勢等	文化芸術の振興には、地域にかかわらず、文化芸術を鑑賞、参加、創造できる環境づくりが求められている。芸術創造活動の振興のため、重点的な支援と幅広く多様な支援の均衡を図る必要がある。	
他市等の事例	国・県・市を始め、民間企業なども芸術文化を振興するための事業に対し補助や助成を行っている。	
市民ニーズ	把握方法	各事業ごとにアンケート調査を行う。
	把握内容	アンケート内容から来場者の満足度やニーズを捉える。
	対応等	多様な市民ニーズに応えるため共催事業の拡充等により、幅広いジャンルの事業の提供を行う。

8. 事務事業の評価と今後の方針

評価	藤沢市みらい創造財団が実施する音楽・演劇等を鑑賞する機会の提供や、市展・ロビーコンサート等文化事業の実施により、地域文化あふれる豊かな市民生活の形成に寄与することができた。結果、文化の向上と普及、伝統の継承に繋がった。	
今後の方針	まちづくりテーマ	② 『2020年』に向けてまちの魅力を創出する
	事業の方向性	現状維持
	みらい創造財団が実施する音楽・演劇等の鑑賞事業や各種文化事業の実施により、市民への文化芸術鑑賞の機会や活動の場が提供されており、もって本市の芸術文化の創造と発展に寄与しているものと考えている。今後においてもその事業内容等を精査しながら、継続して助成及び支援を実施していく。	

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

業務記述書No.	具体的業務の名称	業務見直しの視点等			
		新たな委託（一部含む）の可能性	業務効率改善の可能性	リスク分類Ⅰ	リスク分類Ⅱ
13	公益財団法人藤沢市みらい創造財団芸術文化事業部門の運営指導及び連絡調整	無	有		1

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満，レベル2は10%以上30%未満，レベル3は30%以上。

※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響，レベル2は部内への影響，レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

部名	生涯学習部	氏名	秋山 曜	確認日	2018/6/1
----	-------	----	------	-----	----------